

小学校通常学級の授業研究会に特別支援教育の視点を如何に盛り込むか —兵庫県A小学校での授業コンサルテーションの試み—

How is the aspect of special needs education included in the research on teaching association in the mainstream class in elementary school?
— Attempt of consultation at a certain elementary school —

柘 植 雅 義*	河 場 哲 史**	赤 松 博 子**	尾 崎 朱**
TSUGE Masayoshi	KAWABA Tetsushi	AKAMATSU Hiroko	OSAKI Aya
田 中 裕 一**	太 田 聡 子**	高 田 善 彦**	米 澤 公 子**
TANAKA Yuichi	OHTA Satoko	TAKADA Yoshihiko	YONAZAWA Kimiko
	鳴 海 正 也**	雑 賀 美 恵子***	
	NARUMI Masaya	SAIGA Mieko	

本研究は、発達障害の児童が学ぶ小学校通常学級で行われる授業研究会において、特別支援教育の視点からの授業分析と研究協議の有効性とその在り方を検討することを目的とした。対象となった授業は、兵庫県内の公立小学校4年生の国語で、単元「伝言はまちがえずに」であった。現職派遣の本学大学院生（特別支援教育学専攻）ら10名で、特別支援教育の種々の視点からの研究授業の分析と、それを踏まえた授業研究会での研究協議、そして、その1週間後の授業分析詳細報告書の作成と学校への送付、学校の教員によるその評価・感想、という一連の流れで行った。その結果、今回行った特別支援教育の視点からの授業分析や研究協議、その後の詳細報告書などの有効性が示された。そして、発達障害の児童が学ぶ小学校通常学級で行われる授業の、授業分析や授業研究会の在り方などが検討され、課題が整理された。

キーワード：特別支援教育 発達障害 授業分析 授業研究会 授業コンサルテーション

Key words: Special Needs Education, Developmental Disabilities, Class Room Analysis, Research on Teaching Association, Consultation

1. 研究の目的

特別支援教育の充実に伴い、近年、小学校や中学校においては、通常学級に在籍する様々な発達障害の児童生徒への個に応じた指導が求められ、児童生徒一人一人の教育的ニーズを踏まえた、指導上の工夫の検討や蓄積が始まっている。

一方、「確かな学力の向上」は、「豊かな心の育成」などと並んで、近年、我が国の教育の最大の関心事の一つとなり、学習指導要領において「個に応じた指導」の必要性が強調され、2008年3月に改訂された新学習指導要領においても、そのような基本的な考えが一層協調されることになった。また、2007年4月からは、全国学力テストがスタートしている。このような中、小中学校においては、教師の授業の振り返りや、授業での指導力向上の仕組みである、授業研究会への期待が高まってきている（橋本・坪田・池田、2003；秋田・キャサリン、2008；石橋、2009）。

その際に、通常学級には発達障害やその周辺の児童生

徒も在籍していることを前提とした学習指導案の検討や、授業の実施、授業研究会の在り方などについての模索が、期待され（柘植、2005）、各地の学校で行われるようになってきた（葦塚、2009）。

しかし、発達障害のある児童生徒が在籍する通常学級の国語や算数・数学などの各教科の授業研究会において、特別支援教育の視点をどのように盛り込めば良いのかは整理されているわけではない。

さらに、専門家による授業研究会への参加と助言という形は、これまでの授業研究会においても行われてきたが、特別支援教育の視点を盛り込むことを目指した授業コンサルテーションという視点からの、各教科の授業における専門家による助言（介入）はこれまでほとんどなされてこなかった。授業者のみならず、校内の授業観察者に向けてのコンサルテーションでもあることから、「「集団」授業コンサルテーション」と呼んでも良いだろう。（柘植、2009；柘植・杉本・飯島、2010）

そこで、本研究では、ある公立小学校における授業研

* 兵庫教育大学臨床・健康教育学系 ** 兵庫教育大学大学院学校教育研究科(修士課程)

*** 鳥取県米子市立弓ヶ浜小学校教諭

平成21年10月19日受理

研究会を対象にし、学習指導案の作成の在り方、特別支援教育の視点による授業観察の在り方、授業研究会（授業後の研究協議会）の在り方等について検討することを目的とした。

2. 研究の方法

2. 1. 観察対象の授業

学校：兵庫県B市立A小学校 4年生

授業：国語科の単元「伝言はまちがえずに」

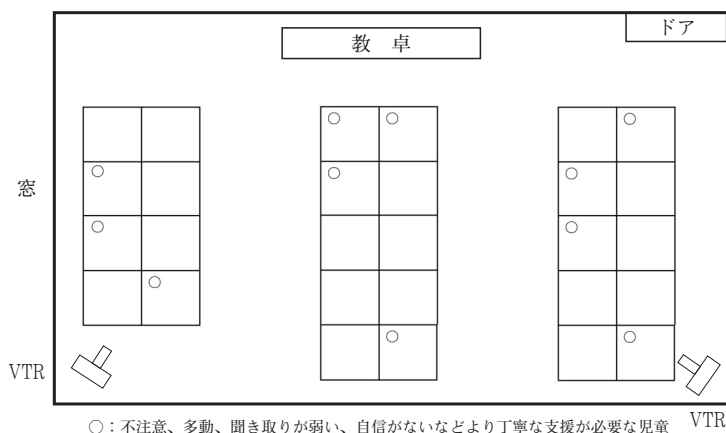
日時：2009年〇月〇日(〇)5校時 授業実施(2/4)

学習指導案(資料1)：

教師：(C教諭、中堅域の教員で特別支援学級の担当の経験がある。)

2. 2. 対象学級

対象となった学級は、28名の児童が在籍している。その内、不注意、多動、聞き取りが弱い、自信がないなどにより丁寧な支援が必要な児童が11名。学級経営を行うには、いわゆる「難しい学級」であるが、学級の適切な把握や指導の工夫など、担任の優れた指導力により上手い具合に学級経営や授業が行われている。図1に、学級の座席配置図を示す。



○：不注意、多動、聞き取りが弱い、自信がないなどより丁寧な支援が必要な児童

図1：観察対象授業の座席配置

2. 3. 授業観察者

兵庫教育大学大学院修士課程の特別支援教育コーディネーターコースの1～2年生8名(現職派遣)、大学院研究生1名(現職派遣)、それに院生らの指導教員1名の計10名。

2. 4. 手続き

表1に研究の流れを、表2に授業の観察及び分析の内容を示す。教室の後方の角2箇所に2台のVTR録画カメラを設置し、授業の全体を録画した。授業観察者は、それぞれ、自分に割り当てられた観察の内容と観点を踏まえ、観察のし易い場所で、ノートに記録した。

表1 研究の流れ

- ・授業研究会の前日まで
 - ・当日の流れ等について、大学研究室及び小学校で確認(授業研究会の1か月前から1週間ほど前までにかけて、数回)
 - ・小学校から、大学研究室へ学習指導案を送付(授業研究会の1週間ほど前)
 - ・大学研究室は、学習指導案などを踏まえて分析の観点の検討と、役割分担を行う。
 - ・大学研究室は、対象の教科書、指導書、関連する学習指導要領の箇所などを予習。
- ・授業研究会当日
 - ・事前の打ち合わせ(校長室)
 - ・校内のショートトリップ(学校全体の実態把握)
 - ・授業観察の準備(授業対象の教室におけるVTRなどのセッティングなど)
 - ・大学研究室のメンバーの各自による観察場所の確保(視点に応じた場所)
 - ・授業の開始(授業観察の開始)
 - ・校内授業研究会ということで、全職員が観察
 - ・大学研究室のメンバーによるそれぞれの分担の視点から観察・記録
 - ・授業後、大学研究室メンバーによるブリーフ協議(研究協議での簡単な説明のために、各自の観察結果の確認と共通理解。)
 - ・授業研究会の開始
 - ・校長 はじまりの挨拶
 - ・司会者 本日の目的と内容について説明
 - ・授業者からの説明
 - ・全教員による協議
 - ・アドバイザー(第1筆者)からのまとめ(研究室のメンバーによるブリーフプレゼンを含む)
 - ・教頭 おわりの挨拶
- ・授業研究会の後日
 - ・大学研究室が分析結果をまとめた授業分析詳細報告書(資料2)を作成し、学校へ送付。(授業研究会の1週間後)
 - ・学校は、報告書の内容を踏まえて、今回の授業研究会についての全職員からのコメントをまとめて大学研究室に送付。(報告書送付から3週間後)

表2 授業の観察及び分析の内容

- ・学習指導案の作り(A)
 - (a) 授業全体のねらい、学級(児童生徒)の実態などの事項についての、個々の発達障害の児童生徒のそれぞれの記載
 - (b) 授業の構成(導入、展開、まとめ)における、個々の発達障害の児童生徒の記載の仕方(指導の方法、評価の方法)
 - (c) 板書計画への配慮の工夫
 - (d) 教材・教具への配慮の工夫
 - (e) その他(複数教師、補助員などがいる場合の関連する事項の記載)
- ・当日の授業(授業の枠組み(フレーム))(B)
 - (a) 学級(授業)の雰囲気(全体的な印象)
 - (b) 教師の指示・発問・説明
 - (c) ほめ方・しかり方
 - (d) 机間支援
 - (e) 板書
 - (f) アイコンタクト(目配り、見渡し、関係作り)
 - (g) その他(複数教師、補助員などがいる場合の関連する事項の記載)
- ・当日の授業(教科内容、単元内容など)(C)
 - (a) 単元設定
 - (b) 授業構成
 - (c) 評価
 - (d) その他(複数教師、補助員などがいる場合の関連する事項の記載)
- ・当日の授業研究会の持ち方(協議の在り方)(D)

3. 結果

3. 1. 授業観察の実施

9人の観察者による授業観察の視点は、以下の11であった。これらは、観察者による事前の協議で決められた。

1. 授業全体について
2. 学級経営について
3. 児童全体への支援
4. 支援の必要な児童への対応（授業への集中と姿勢、体の使い方）
5. 支援の必要な児童への対応
6. 支援の必要な児童への対応
7. 学級経営の工夫と注意集中への工夫
8. アイコンタクト、立ち位置、机間巡視、言葉を削る、一目で分かる工夫
9. 学習指導案について
10. 学習指導案について
11. 研究協議の進め方について

9人の観察者による授業観察は、予定取り進んだ。観察者は、一つか二つの予め決められた事項についての記録に集中することができたことから、詳細な記録が可能であった。

また、個別の児童に関する記録をする者は、予め用意した学級の座席表（A3版横置き）に、個別的な事項の記録をした。

3. 2. 授業研究会の実施

授業研究会は、授業者の報告（振り返り）、研究協議、助言、という良く行われる一般的な流れで進んだ。

研究協議では、主体的に発言をする者が多く、当を得た内容、前向きな内容の発言が多かった。また、協議に際しての配付資料が丁寧な作りで、充実していた。

特別支援教育の視点からの発言内容が多く見られた。

一通りの協議が終わってから、助言者からの発言では、まず、授業研究会の意義、授業に特別支援教育の視点を入れることの意義、授業研究会に特別支援教育の視点を盛り込むことの意義について、がなされた。

その後、各授業観察者が、自己の観察事項の結果（の速報）について紹介し、助言者が、本時の授業についての評価を行った。

助言者が、授業研究会の際にアドバイスした、子どもの本時野の授業中の活動についての記録（プロダクツ）の整理をしてみてもどうか（これも、授業の評価の際のエビデンスとなる）のアドバイスに、後日それを実施した結果が送られてきた。

3. 3. 詳細報告書の作成

授業研究会の報告書を作成し、1週間後にA小学校に郵送した。その報告書は、資料2に示すとおりである。

3. 4. 授業者及び授業研究会参加者への報告書を読んだアンケート調査

報告書を読んだ感想について、11名から回答が寄せられた。主なものを、表3に示す。

それによると、回答の内容は、(1)報告書の役立ちに関する感想、(2)報告書の作りについての感想、(3)記載の内容についての感想、(4)これからの研究授業の記録の仕方についての感想、(5)今後の教育活動の充実への決意、の5点に分類された。

表3 報告書を読んだ感想（アンケート調査）の結果

(1) 報告書の役立ちについての感想

- ・「授業者だけでなく、どの教師にも今後の取り組みに役立てることができる内容です。」
- ・「国語だけでなく、どの教科においても大切にしなければならない授業のポイントや留意点を示していただいている。」
- ・「特別な配慮のいる児童の支援の在り方や、学級経営のポイントを具体的に提示していただいている。」

(2) 報告書の作りについての感想

- ・「これだけ多くの方が、いろいろな観点から授業を見て、後でまとめて下さったこと、すばらしい取り組み（研究）だと思います。しかし、本来は、私たち自身が、研究授業の中でも分担してできること、いや、今後やっていかなくてはならないことなのではと、反省しています。」
- ・「細かくデータを取っていただいているのだと、びっくりしました。」
- ・「教師として気を付けないと行けないことが、細部にわたって記録されていることに感心しました。」

(3) 記載の内容についての感想

- ・「特に、改善点を的確に書いて頂いたのが良かったと思います。」
- ・「声かけの仕方、配慮の仕方、参考になりました。」（このような、個々の対応策についてのコメントは多かった。）
- ・「アイコンタクト、立ち位置などのチェック表は、普段から活用できる表だと思いました。」（このような、記録の視点へのコメントは多かった。）

(4) 研究授業の記録の仕方についての感想

- ・「次回の研究授業の記録の仕方に参考になると思います。」
- ・「これだけ多くの方が、いろいろな観点から授業を見て、後でまとめて下さったこと、すばらしい取り組み（研究）だと思います。しかし、本来は、私たち自身が、研究授業の中でも分担してできること、いや、今後やっていかなくてはならないことなのではと、反省しています。」

(5) 今後の教育活動の充実への決意

- ・「学級崩壊に至らしめず、どう乗り越えていくかという大きな課題追究の報告書として理解できました。」
- ・「報告書をつぶさに読み、できることから実践につないでいきたいと思っています。」
- ・「子ども達の立場に立って、自分自身の授業、学校生活を振り返り、共に学び合う学校でありたい。」

4. 考察

A小学校に行った授業コンサルテーション（多角的な分析・協議）の有効性

授業研究会で、特別支援教育の視点からの観察とその結果の一部の紹介は、有効であった。特に、大学からの10名による詳細な視点からの総合的な分析と、それを活用した協議は、より具体的なレベルでの授業改善につい

て議論することが可能となった。

A小学校で行った、特別支援教育の視点からの個々の具体的な事項による観察・分析は、現状の授業を捉え、良さと問題点を把握し、改善策を明らかにして、改善していく、といった授業改善のプロセスを進める際の、授業コンサルテーションに重要な役割を果たした。「上手かった」「下手だった」というレベルを超えて、授業中の教師のどの対応がどのような成果をもたらしたか、さらにどのような対応が必要だったか、といった授業改善に直接結びつく具体的内容が協議されることに繋がっていくことが期待される。

授業研究会後の報告書の作成・送付の有効性

授業研究会で、特別支援教育の視点からの観察とその結果の一部の紹介は有効であったが、後日、1週間ほどで詳細な分析結果を盛り込んだ報告書を作成し、学校の全教員に配布したことで、改めて、各教師が、授業研究会で取り上げた授業を改めて振り返えることを支援することができたと考える。

報告書の巻末にアンケートを添付したことで、11名の教師から回答を得ることができた。報告書の作りや記載の内容について評価するものばかりで、今後は、自分たちでこのような分析を行っていくことが必要ではないか、といった記載もあった。

報告書作成に1週間ほどの時間がかかった。できれば、数日でフィードバックできると良いかもしれないが、1週間ほどかかったことに対する意見はなかった。

特別支援教育の係る観察の視点の有効性

(1)特別支援教育から見た場合の授業全体、児童全体、学級経営といった、授業の全体的な観察、(2)特別支援教育から見た場合のアイコンタクトや立ち位置、期間巡視、教師の指示・説明・質問など、教師の具体的な対応の観察、(3)支援が必要な児童への対応の観察、そして、(4)学習指導案の作りや内容、(5)研究協議の進め方と成果、といった大きく5点からの観察を行った。これによる観察・分析を盛り込んだ報告書を、教師が読んだ後の回答や、実際に観察した観察者の事後の声などから、およそこの5点で、特別支援教育の視点からの授業観察と、改善に向けた協議、という当初の目的は達成できたと考える。

ただ、人(9人の観察者)や時間(報告書作成)といったコストパフォーマンスは良好だったか、という点については、いろいろな見方があると思う。教師の一人での振り返りや、学年団や同一教科担当者間での小規模な授業研究会では、コストが大きいかもしれないが、例えば、年に1回、あるいは数回の学校全体での授業研究会や、特に、特別支援教育の視点からの研修という位置づけで

行うことが考えられる。

また、特に、普段の授業研究会での活用可能ということを考えるのであれば、気になる事項、改善したい事項によって観察項目を選択することも可能であろう。

本研究の限界と今後の課題

今回の介入は、本当に授業者や授業観察者の授業改善に繋がるか、がポイントである。授業研究会や、報告書を読んだ感想などではなく、実際に、授業者や授業研究会参加者が、彼らの授業改善にどのように繋がっていったか、といった波及効果の把握が必要である。そのためにも、フォローアップ調査が必要であろう。

今回取り上げた、観察のポイントに過不足などはなかっただろうか。そもそも特別支援教育の視点からの授業観察に必要な視点は、何だろうか。それを明確にするための作業も必要であろう。

また、今回は、教科内容への特別支援教育の盛り込みといった視点からの、観察・分析や、それを踏まえた協議ではなかった。

文献

- 柘植雅義(2005)巻頭言：教師は「授業」で勝負する－これからの特別支援教育でこそ求められる中心的な視座－。障害児の授業研究，特集：特別支援教育への転換。明治図書。
- 柘植雅義編著(2009)小中学校特別支援教育コーディネーターのための実践・新学習指導要項。教育開発研究所。
- 柘植雅義・杉本浩美・飯島知子(2010)一人一人を『徹底的』に大切に授業の実現と授業者への支援。佐藤真二・漆沢恭子編著，通常学級での授業ユニバーサルデザイン－「特別」でない特別支援教育のために－。日本文化科学社。(印刷中)
- 石橋昌雄(2009)「こう育てた 教師の資質」：教職員のリーダーを育てる④「研究授業をさせる」。週間教育資料，1070，20-21。日本教育新聞。
- 秋田喜代美・キャサリンルイス編著(2008)授業の研究 教師の学習－レッスンスターディーへのいざない－。明石書店。
- 橋本吉彦・坪田耕三・池田敏和共著(2003)今、なぜ授業研究か－算数授業の再構築－。東洋館出版。
- 第47回全日本特別支援教育研究連盟全国大会(京都市大会)分科会「LD・ADHD・高機能自閉症等、支援が必要な児童生徒への通常学級での対応」学習指導案集(国語科，算数科)(2008)
- 葦塚雄一(2009)三つの柱に立つ特別支援教育の実践－分かる授業づくり，いごこちのよい集団づくり，個別支援－。特別支援教育研究，5月号，18-21。日本文化科学社。

資料1

第4学年〇組 国語科学習指導案

B市立A小学校

指導者 ○○ ○○

平成21年〇月〇日

1. 教材

「伝言はまちがえずに」

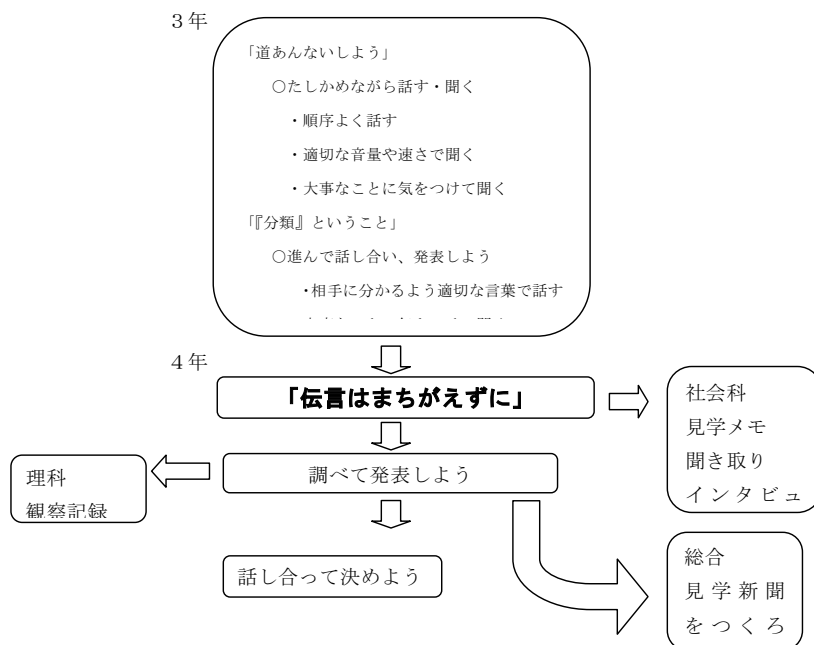
2. 指導にあたって

本学級の児童は、明るく活発で自分の意見を素直に表現できる。また、到達目標や勝敗がある事柄については、意欲を持って取り組むことができる。しかし、自分の考えを一方的に相手に押しつけて喧嘩になったり、自分の言葉で相手が傷つくことまでは想像できずにトラブルになったりすることが多い。一方、クラスでの取組には参加しているが、周りの意見に左右され、自分で考えて行動できずに受け身でいる児童も目立つ。この傾向は学習時間にも見られる。読みとりについては特定の児童に発表が固定されてしまうことも多い。口頭で指示された内容については、聞いていないために次の行動に移せなかったり、聞き直しや確認をしてきたりすることが多い。その中には、耳からの情報が受け取りにくい特性をもつ児童や、学習に集中しにくく常に体が動いている児童も見られる。

「伝言はまちがえずに」は、電話での伝言という、日常よく出会う場面を想定した内容になっている。また、実際に電話によって伝える練習をすることで、伝える側がメモを用意したり、聞く側もメモを取ったりすると間違いが少ないことも経験させることができる。その中で、話す側は、相手のもっている情報を考えながら、何を伝えるべきか、よく考えて話さなければならないこと、聞く側は、伝達されたことに落ちがないか、聞き違いはないかなど確認する必要があることが分かるだろう。これらは、電話に限らず、日常的に必要な「聞く力」「話す力」をつけるためにも大切なことだと思われる。

指導にあたっては、電話での伝言や用件を伝える場面を想定した教材を使って、実際に練習させる。その中で、「聞き手」や「伝え手」として大切なことを考えていきたい。伝言練習では、両方の立場を経験させ、「ゆっくり話す」「メモを取って聞く」「分からないことを聞き直す」「確認する」をおさえたい。内容を正確に聞き取ることやわかりやすく伝えること、相手の立場を考えていくことは、普段の生活の中でも大切なことだと思われる。また、小グループ中心で活動する中で、互いのよさを認め合うことや、問題解決に向けて話し合い、高め合うことを期待したい。

3. 学習内容の関連



4. 目標

口頭で用件を伝達する時に大事なことが分かり、メモの取り方を工夫して適切に話したり聞いたりする。

話す・聞く	・相手に用件が伝わるように、大事なことを落とさず、筋道を立てて適切な言葉づかいで話す。 ・大事なことを確かめながら聞き、短い言葉でメモを取る
言語	・その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話す。

5. 指導計画と評価計画（全4時間）

時	目標	学習指導	おもな評価規準
1 気づき ・習得	話すときの工夫を考える。	電話で伝えるとき、内容を正しく伝えるために大事なことは何かを考える。	その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すことができる。
2 気づき ・習得	聞くときの工夫を考える	話し手と聞き手の両方の立場を体験し、よいメモの取り方について話し合う。	大事なことを確かめながら聞き、短い言葉でメモを取ることができる。
3 活用	伝え合うときの工夫を考える	それぞれの課題について、大事なことを落とさず正しく伝え合う練習をする。	相手に用件が伝わるように、大事なことを落とさず、筋道を立てて適切な言葉遣いで話したり聞いたりすることができる。
4 活用	学習を振り返り、まとめの作文を書く。	話し手と聞き手の両方の立場から伝え合う練習を振り返り、反省点や改善点を考える。	学習内容をふり返し、伝えあうことで大切なことをまとめたり、またそれらを生活の中に活かそうとしたりする気持ちを持つことができる。

6. 本時の学習（2/4）

①本時の目標

用件を聞き取る時にはメモを取ればよいことが分かり、大事なことを落とさずにメモを取ることができる。

②本時の評価基準

評価の観点	評価方法	評価基準と支援		
		A	B	支援
話す・聞く力	観察 聞き取りメモ 発言内容	<ul style="list-style-type: none"> 大事なことに気をつけて聞き、短い言葉でメモを取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 上手なメモの取り方に気がつく。 大事なことに気をつけてメモを取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取りのポイントを記したプリントを配布する。

③準備

聞き取りメモ プロジェクター実物投影機 スクリーン 延長コード CD

④展開

学習活動	指導上の留意点
1. 本時の課題を確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> 机上整理、姿勢を意識させ、学習姿勢をつくる。（A児、B児、C児、D児、E児、F児） 前時の学習（話し方）のまとめを掲示し、視覚的に確認する。 本時は、聞き方の工夫を考えることを確認する。 <p style="text-align: center;">聞き方の工夫を考えよう。</p>
2. CDを聞いて、聞き取ったことを発表する。 ・聞き取れなかった。 ・おぼえられない	<ul style="list-style-type: none"> うまくいかなかったつぶやきをとりあげる。 聞き取れなかった、聞き取ることは難しいということを強調する。 <p style="text-align: center;">聞き取りメモを取ろう。</p>
3. 教科書P. 50から、聞き取りメモを取り、発表する。 ・二人一組でメモを取る。 ・メモを実物投影機で発表させる。 ・よいと思ったところを発表する。 ・「聞き手」「話し手」を交代して2回くり返す。	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取りメモの書き方が分かるように聞き取りのポイントを記したプリントを配布する。（A児、B児、D児、G児） 聞き漏らしたことがあれば、「待ってください」「もう一度言ってください」という言葉を使ってもよいことを伝える。（F児、I児、J児） 聞・話大切なことに気をつけて聞き、短い言葉でメモを取ることができる。 聞・話その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すことができる。 よく見えているか確認する。 よいと思った理由も発表させる。 よい例にあがったメモを示しながら、メモを取る時に大事なことを押さえる。 丁寧に書きすぎて時間がかかった児童には、メモなので丁寧にまとめる必要はないことを伝える。（A児、B児、D児、G児、H児） 一回目のメモの工夫を取り入れて書かせる。
4. 「理科の連絡」を聞き、連絡帳にメモを取る。	<ul style="list-style-type: none"> 大事なことを確かめる。
5. 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> 聞き方で大切なことを掲示し、視覚的に確認する。 次回、「伝え合う」学習として伝言ゲームをする事を予告する。

資料2

兵庫県 B市立A小学校
 授業研究会
 国語「伝言はまちがえずに」(4年生)
 2009年〇月〇日(〇)実施

報告書

2009年〇月〇日(〇)
 兵庫教育大学
 柘植研究室

2009年〇月〇日(〇)実施の、兵庫県B市立A小学校における授業研究会：国語「伝言はまちがえずに」(4年生)の報告書がまとまりましたので報告します。内容は、「Ⅰ 総評」と「Ⅱ 各論」からなります。

<基礎情報>

分析対象授業

4年生 国語 「伝言はまちがえずに」

授業者

〇〇 〇〇

授業研究会の流れ

研究授業 13:55~14:40(5校時)

授業研究会 15:15~16:45

- ・授業者の説明
- ・協議
- ・アドバイス(柘植)

(授業分析に参加した大学院生からの分析結果報告を含む)

Ⅰ 総評(柘植雅義)

「良い授業を見せていただいた」、「良い授業研究会に参加させていただいた」というのが、率直な感想です。授業をされたC先生の、「どの子も大切にする」、「どの子にも確かに学ばせる」という2つの信念が、授業の随所から感じ取れる授業でした。また、授業研究会では、ほとんど全ての先生方が、明日の授業に繋がる、なるほどと思われるコメントをされていたのが印象的でした。また、司会のD先生が、たくさんの意見が出やすいよう

な上手い具合の司会をされたことにもよると思います。そして、何よりも、校長先生、教頭先生方が、校内の教師全ての授業力がさらに充実するように日頃から、いろいろ目配りされているに違いない、と感じました。もし機会があれば、この授業研究会を踏まえての、その後の先生方の授業改善の取り組みについて、いろいろ教えて頂ければ幸いです。

Ⅱ 各論

1. 授業全体について(赤松博子)
2. 学級経営について(尾崎朱)
3. 児童全体への支援(米澤公子)
4. 支援の必要な児童への対応(授業への集中と姿勢、体の使い方)(太田聡子)
5. 支援の必要な児童への対応(雑賀美恵子)
6. 支援の必要な児童への対応(鳴海正也)
7. 学級経営の工夫と注意集中への工夫(高田善彦)
8. 5つの授業スキル(アイコンタクト、立ち位置、机間巡視、言葉を削る、一目で分かる工夫)について(田中裕一)
9. 学習指導案について(尾崎朱)
10. 学習指導案について(米澤公子)
11. 研究協議の進め方について(河場哲史)

1. 授業全体について(赤松博子)

1. 1. 時間配分について

時間経過	時間配分	学習活動
00. 00 ~03. 40	3分40秒	1 学習課題を確かめる。
03. 40 ~08. 40	5分	2 CDを聞いて、聞き取ったことを発表する。
08. 40 ~12. 00	4分20秒	3 (1) 聞き取りメモを取ることを知る。
12. 00 ~25. 31	13分31秒	(2) 二人一組でメモを取る。1回目
25. 31 ~28. 10	2分39秒	(3) メモを取る時の大事な点を押さえる。
28. 10 ~38. 40	10分30秒	(4) 二人一組でメモを取る。2回目
38. 40 ~39. 50	1分10秒	(5) 聞き取りメモの取り方を確認する。
39. 50 ~45. 53	6分03秒	4 (1) 「理科の連絡」を聞き、メモを取る。
45. 53 ~47. 18	1分15秒	(2) 「理科の連絡」のメモがとれたか確認する。
47. 18		5 本時のまとめをする。

<良く工夫されていると感じた点>

- ・学習活動1と2の時間配分が適当であった。
- ・学習活動3の(1)(3)(5)の本時の目標に迫るところを押さえる時間配分としては適当であった。

<もう少し工夫できると感じた点>

- 二人一組でメモを取る2回の時間配分は考慮する必要があると思われる。
- 「理科の連絡」でメモの取り方の定着をはかったが、内容の工夫で時間短縮できた。
- メモの取り方のまとめの時間、次時の予告の時間がなかった。

1. 2. 国語の視点から授業のねらいの達成について

(1) 本時の目標は「大事なことを落とさずにメモを取ることが出来る」である。

- メモの取り方 ①大事なことを短い言葉でメモに取る。②わからないことは聞き返す。③相手が言ったことを繰り返す。この3点を全員作業出来る授業形態であったかというところを再考したい。1回目にメモを取った児童と、2回目にメモを取った児童では学習したことの精度が違うと思われる。

(2) 全文をメモした児童のメモを取り上げて、わかるメモの取り方をみんなで考えさせるのも一方法であったのではないと思われる。

(3) 「理科の連絡」の提示は、本時の目標に沿ったメモがとれるよう、もう少し内容を整理したほうがよかったのではないか。

(4) メモの取り方が把握できたか確かめる時間がとれていないので、児童自身が自分で評価出来ていない。

1. 3. 特別支援教育の視点から

(1) 本時の学習活動を計画された通りで進めるなら、支援のいる児童を後の組に回すと、よいメモの取り方がわかってからメモがとれたので、メモの取り方が把握できたと思われる。

(2) 電話の内容を全部記録して発表している児童の時、嘲笑気味の笑いがあったが、即座に注意すべき点であったと思う。

2. 学級経営について (尾崎朱)

2. 1. 良く工夫されていると感じた点

掲示物は間違いがないように点検してからきちんとはられていました。習字道具・絵の具・雑巾は決められた場所に置かれており、水筒も安全な場所におく所が決められていました。学級にルールがあり、安全な環境が保たれているのがすばらしいです。また、「同じです」「つけたしで」といった発表や発言のルールも決められていたのもよい点です。

2. 2. もう少し工夫できると感じた点

クラスで望ましい行動があった時、個別に誉めるだけでなく、その行動のよさを友達やクラスへの影響も含めて語る事がクラスのルール作りにかかせないと思います。例えば「6班静かに出来たね」だけでなく、「静かに待てるというのは勉強している友達を大切にしていること。

優しくできていると言うことだよ。だから素敵だね。」といったほめ方になります。また「タイマーの時間を守る」など、小さいルールを徹底していくことがクラスの安定につながります。(時間が足りない場合は子どもから後～分時間を下さいといった学習の要求が出来るようにしていくといいです) 個への対応はすばらしいので、今後は全体にとっての意味を教え 個と全体をからめて誉めていくといいでしょう。尚前面の掲示物が多いです。給食や生活の目標は横にはるとよいでしょう。

3. 児童全体への支援 (米澤公子)

良く工夫されていると感じた点	
授業の始まりと終わり	1 具体的に指示を出して、机上を整理させている。
	2 全員が姿勢を正してから挨拶をすることで、授業の始まりと終わりを意識させている。
資料提示等	3 前時、本時のまとめをプロジェクターで示し、全員で読ませて確認をしている。 ○機器を使うことで、児童の注意をひいている。
	4 本時のねらいを画用紙で作って黒板に貼り、視覚的に支援している。
	5 活動する時間を、キッチンタイマーで提示している。 ○音で終わりが分かるので、次の活動にうつりやすくなる。
	6 読むところを実物投影機で示し、視覚的に分かりやすく指示している。
児童への対応	7 児童が発表をする時間をとっている。
	8 児童が発表をしている時、視線を合わせ、うなずいたり、言葉を繰り返したりして聞いている。
	9 児童のつぶやきをひらい、発言しにくい児童に関しては、代弁をしている。 ○授業に大切な小さなつぶやきをひらうことができていた。 ○児童が発表しにくいときは、『～って言っていたよね。』と、児童に寄り添って代弁をしていた。(児童との関係、関わりがとてもよかった。)

もう少し工夫できると感じた点	
見通し	1 授業の流れが分かりやすいように、児童に説明し、提示する。 ○見通しを持つことで、落ち着いて活動できる児童がいます。
	2 行うべき作業内容を、口頭だけでなく、黒板に書くなど、具体的に指示を出す。
作業指示	3 指示は、全員を集中させてから出すと良い。 ○指示と配布プリント両方に気を取られ、指示が全体に通らないので、一つ一つの活動を分ける。 発表を聞く時の具体的な指示がなかったため、児童の集中が途切れていた。 ○発表を聞くポイントを示す。 【態度】・発表をしている友だちの方を見て聞こう。 ・発表をしている時は、静かに聞こう。 【支援】・発表を聞くめあてを持たせる。 例1) メモを取るポイントをさがそう! 例2) (ポイントを示して) ポイント通りになっている所をさがそう! ・発表が終わった後に、良かったところを発表させる。 →友だちからの評価し合うことで、互いのよさを認め合う場面設定をする。
	5 活動が早く終わった児童に対する指示を出す。 ○作業スピードが遅い児童に合わせることも大切だが、早く終わった児童にとっては空白の時間となる。活動前に、終わった児童がする作業も指示しておく。 ○作業時間の差が出にくいように、机間巡視の時に個別支援を行う。
	6 児童を褒めるとき、全体にも広めるようにする。 ○児童の自尊感情を高める。 ○認め合える学級づくり。
プリント	7 児童の実態に合わせてプリントを作る。 ○縦書きで、右から書いていた児童がいた。線を入れることで、書き方を間違えない。
板書計画	8 板書計画を工夫する。 ○プロジェクターでポイントを示すことはよかったが、もっと1時間の流れが分かる板書にする。

4. 支援の必要な児童への対応（授業への集中と姿勢、体の使い方）（太田聡子）

気になるお子さんに対しての配慮をさりげなくされているのがよいなと思いました。言葉による指示だけではなく、体を使って（手を触って手遊びをやめさせる、崩れた姿勢を立て直してあげる、聞くときに横に立つ）指示することは、集中が難しいお子さんにとってわかりやすかったのではないかなと思います。

実物投影機をつけた瞬間、子どもたちの視線が前方に集まりました。また、理科の先生の登場で教室が静かになり、先生の話すことをよく聞こうとしていました。子どもの興味を引く教材の設定はさすがだなと思いました。

何人かのお子さんにとっては、机といすの高さが合っていないのではないかと感じました。机が高く肩が上がった状態だと、手の動く範囲が狭くなり机上での活動に影響がでます。椅子の高さを合わせて足を地面に付けると、しっかり踏ん張ることができて姿勢が安定します。

また、授業中ずっと姿勢を保ち続ける必要はありませんが、途中でリラックスする時間を設けたり、授業のポイントとなるところで姿勢を正して聞く姿勢を作らせたりして、メリハリをつけるのもよいと思います。

指先の力が弱く、手首を使って字を書いている子が何名かいました。もし字が収まらない子がいたら、メモの大きさを変えてもよかったと思います。

5. 支援の必要な児童への対応（注意集中、自信が持てなく消極的）（雑賀美恵子）

5. 1. 集中して聞けない、姿勢がくずれやすい子どもに対して

<良く工夫されていると感じた点>

○机上整理をして刺激を減らすー使わないノートはしまうことの指示をする。

○注意を引きつける

・気になる子のそばに行き、話す人の方を向くように促したり肩に手を置いたりして気付かせる。

・一斉指示をしながら、途中で「○○くん、むずかしかった？」といった言葉で注目させる。

○視覚的情報を使う

・プロジェクターやカードを活用する。（特に、教科書のどの部分に注目すればよいかの指示については効果的だと思いました。）

○モデルとなる友達をほめる

・「個々の班の人、いい姿勢です。」と全体に紹介すると、まねをして姿勢を正す子どもがいた。

<もう少し工夫できると感じた点>

○視覚的情報として、よい姿勢・場面に合った声の大きさがわかる絵や図を用意してはどうでしょう。「姿勢は？」と短い言葉をつけて指さすだけで注目すること

があります。

○学習の中で、よいメモの例を黒板に貼ってみせることも取り入れてはどうでしょう。「要点をメモする」という活動のモデルを示すことで、目標達成のための一つの方法になると思います。

5. 2. 自信が持てないために消極的な子どもに対して<良く工夫されていると感じた点>

○安心感をもたせる言葉かけをするー

・発表をする子どもに対して「いいよ、だいじょうぶ。」

・教科書を開くのを待って「ありましたか？」と確認

・子どものつぶやきを拾って授業に生かす

○聞き取りメモ用のワークシートを用意する

6. 支援の必要な児童への対応（鳴海正也）

児童	観察事項の観点					授業観察と仮説対処法
	机上整理	姿勢の制御	聞き取りメモ	依頼の仕方	応答質問のルール	柔軟に対処する
P児	○	○	○			○
	●	○	○			△
Q児	○	○	○			○
	△	○	●			△
Y児				○	○	
				△	△	
Z児				○	○	
				△	△	

上段：先生からの指摘 ○

下段：今回観察から課題あり ○ 課題未確認 ● 不明 △

<観察者のつぶやき> 先生の授業はとても個人的支援や非言語の支援がうまいですね。つぶやきや子どもの細かな反応に敏感に反応される力もすばらしいです。学級経営もしっかりされてるが、授業デザインや板書計画などを工夫されるともっと子どもが生き生きとするかもしれません。I T Cを使って発表させるときフォーカスが遅いようです。机の上に背景色を張り、枠を作った方が子どもは資料提示しやすいと思います

7. 学級経営の工夫と注意集中への工夫（高田善彦）

7. 1. 良く工夫されていると感じた点

①教室環境について

- 子どものランドセル、ピアニカなどが整然とかがたづけられていて気持ちがよかった。
- 「朝の会」「終わりの会」の内容がしっかりと書かれていて、分かりやすく感じた。

②〇〇先生について

- 声の抑揚、机間支援、ボディタッチやサイン（非言語的な支援）での支援、指導の評価（あそこの班、姿勢がいいで。）など、本当に見習うべきことがたくさんあった。

③子どもたちについて

- ギャングエイジ真っ盛りの元気な子どもたちが多かった。大牧先生の4月からの関わりで、落ち着いた、しっかりとした授業が展開されていた。

7. 2. もう少し工夫できると感じた点

- やはり学級経営が基本。ホスピタリティあふれるクラスは、特別な配慮がいる子どもにとっては何よりの支援です。子どもたち全員が安心して過ごせる4年1組にするために、より一層の学習規律の確立が望まれます。発表の仕方や友だちの発表を聞く姿勢など、視覚的なカード(※)を提示したり良いお手本を示したりしながら、身につけていってほしいと感じた。「僕の意見を聞いてくれている。」「私の意見を聞いてほしい。」という一人一人の思いを大切にすることが、思いやりのある優しいクラスづくりになっていくと思う。
(※) 視覚的なカード→「今は先生の話す番」「みんなが発表する番」「作業をする時」などなど、それぞれのカードが提示されたときはどのような態度をすればよいか？なども伝えながら提示する。

- ・集中力の持続しにくい子どもには、短時間の集中する時間を作り（この授業の場合はメモをとる）、時折、身体を動かして活動をする場面も必要なのでは？と思った。今回は、そのような子どもに、電話をかける人になってもらい前で話す、また、実際に聞き手になり教室の前でメモをとり、他の子どもも同じようにメモを

とるといった活動を合間に入れていけば、集中力も持続したのではないかと感じた。また、授業の最初に流れを視覚的に提示し見通しを持たせ、子どもたちに向かう先を提示する（この授業のねらい）のも、集中力を持続させる一つの方法でないかと感じた。

8. 5つの授業スキル（(1)アイコンタクト、(2)立ち位置、(3)机間巡視、(4)言葉を削る、(5)一目で分かる工夫）について
（授業観察チェックシートの活用）（田中裕一）

授業者（〇〇〇〇先生 4年〇組）		授業内容（教科： 国語 ） 単元（ 伝言はまちがえずに ）		
	項目詳細	チェック		メモ
(1) アイコンタクト	1 授業中にアイコンタクトで子どもの様子を確認している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	2 指示・発問をした後に、子どもの作業内容を確認している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	3 アイコンタクトを使って子どもを評価（褒める、注意するなど）している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	発言を聞いている子へのアイコンタクトをうまく使っています
	4 アイコンタクトを使って子どもの注意を引きつけている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	5 説明しているときの左右の後ろの席への目線が弱いので、意識して視線を送るようにしてみてください			
(2) 立ち位置	1 授業中に立ち位置を工夫して子どもの様子を確認している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	2 指示・発問をするときに、立ち位置を工夫している	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	3 指示・発問をした後に立ち位置を工夫して子どもの作業内容を確認している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	4 立ち位置を工夫して子どもを言語で評価（褒める、注意するなど）している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	5 立ち位置を工夫して子どもを非言語で評価（褒める、注意するなど）している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	6 立ち位置を工夫して子どもの注意を引きつけている	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	7 指示をしているとき、子どもの発言を聞いているときなどに立ち位置を変えると授業がよりスムーズに流れます			
(3) 机間巡視	1 授業中に机間巡視をして子どもの様子を確認している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	2 指示・発問をした後に、机間巡視で子どもの作業内容を確認している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	3 指示・発問をした後に机間巡視で子どもに短時間のアドバイスをしている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	4 アドバイスをするとき、周囲の子どもに配慮している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	5 作業が終わった子どもにすることを指示している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	6 机間巡視をしながら子どもを言語で評価（褒める、注意するなど）している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	7 机間巡視をしながら子どもを非言語で評価（褒める、注意するなど）している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	8 机間巡視をして子どもの注意を引きつけている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	9 机間巡視とアイコンタクトなどの非言語を組み合わせて、うまく対応されています			
(4) 言葉を削る	1 余分なことを言わずに指示・発問・説明などを明確にしている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	2 一度にひとつの指示・作業・説明などをしている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	3 非言語（指差し、手刀など）での指示を一緒にしている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	4 授業中に子どもに作業をさせている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	5 作業が終わった子どもにすることを指示している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	6 子どもを言語で評価（褒める、注意するなど）している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	7 子どもを非言語で評価（褒める、注意するなど）している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	8 挙手指名以外の指名方法を使っている	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	列指名等も使うとよりいいでしょう
	9 授業中にしーんとした時間がある	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	10 非言語での褒め方も含め、子どもとの非言語コミュニケーションが非常にうまいです			
(5) 一目で分かる工夫	1 丁寧でわかりやすい板書をしている（色、枠囲み、下線、行間、小黒板等）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	2 指示・発問の視覚化をしている（指示を書く、貼り付けるなど）	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	3 指示・発問がわかりやすいように、実物や写真、絵、図示などをしている	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	
	4 授業内、作業などすることの見通しを持たせる工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	5 理解しやすいように絵や写真、図、実際の動作などを利用している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	6 デジタル教材とアナログ教材をうまく併用している	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	7 正答の例示がされなかったために、子どもに正しいメモが伝わったのかどうか気になります			
その他	<p>（教室環境・授業の進め方・学級経営など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスにたくさん気になる子がいるにも関わらず、アイコンタクトなどの非言語コミュニケーションを有効に使いながら、とてもうまく授業を展開されています。 ・授業中の子どものつぶやきをうまく聞き取って対応することができていますが、もう少し聞こえなかったふりをして子どものつぶやきを無視してもいいと思います。 ・机間巡視で得た子どもの解答をその後の展開に活かせると、普段あまり手をあげない子にも活躍の機会ができると思います。 ・教師がしてほしいことをしている子どもや頑張っている子どもなどをうまく褒めています。それを全体の子どもに伝えるように意識すると、教師が褒めた行動を子どもが真似をしていくと思います。 			

9. 学習指導案について（尾崎朱）

9. 1. 良く工夫されていると感じた点

5.指導計画と評価計画（全4時）の所に「習得」「活用」という記述がありました。「習得型学習活動」の後に必ずその学習成果を応用する場となる「活用型学習活動」を置くことが重要とされています。堀江（2008）は『「習得型」「活用型」の両方の活動を設定し、行き来させながら、確かな言葉の力を身につけさせることが求められている。』と述べていますが、先生がこの事を意識され、きちんと指導案に盛り込まれていることが素晴らしいと思いました。

9. 2. もう少し工夫できると感じた点

授業前の指導案から、いくつか改善点があげられました。指導案に十分にクラスの実態を反映させていないのでねらいと評価がふれ指導案に不備が出た事、また、板書計画を立てないで不備がチェック出来ず指導案を直せなかった事が問題でした。

「留意点」に手立てをもう少し書き加える事も指導案改善に繋がると思います。

また、4. 目標にある「言語」の扱いですが、新指導要領では、旧指導要領の[言語事項]の内容の内、各領域の内容に関連の深い物については、それぞれの領域の内容に位置づけられることになっています。

旧来[言語事項]にあった「ア発声・発音に関する事項(ア)その場の状況に応じた適切な音量や早さで話す等の事柄は、A話すこと・聞くことの 指導事項に含まれるようになりました。

実際の授業においては、堀江(2008)が『話す速度や音量などを、ただ単なる知識・技能に終わらせず、実際の場において活用できる形で指導すると言うことが求められています。例えば、授業においてスピーチや話し合いを行う中で、こうした知識・技能がしっかりと身についているかどうかを常に確認し、必要があれば、取り立てて指導すると言うこととなります』と、述べています。言語の扱いについては整理されるとよいかもしれません。

（引用：堀江祐爾（2008）中学校学習指導要領要点解説 東京書籍

10. 学習指導案について（米澤公子）

項目	内容
1 必要とされる事柄	●日時、場所の記入。 ●単元名の記入。
2 単元設定の理由	○つけたい力にかかわって課題を明らかにしている。 ●児童観と結びつけた教材観にする。 この教材で、児童にどのような力をつけたいのか、児童観に書かれたこの教材で何を学ばせるのか、具体的に書くといでしょう。 ●指導観に児童の実態に合わせた支援や、指導の工夫が明示する。 耳からの情報を受け取りにくい特性をもつ児童がいるのであれば、その支援の具体的な方法を書くといです。
3 学習内容の関連	○全学年からの系統的な流れが明記されている。 既習事項を確認した上で、特に本単元でねらうことが明確になります。 ●関連する教科の内容を詳しく書く。 その授業の位置づけや、目的がより明確になります。
4 単元の目標	○各観点の目標を明示してわかりやすい。 各観点の目標を書くことで、学習指導要領の指導事項と対応させることが出来ます。 ●新指導要領になったので、項目についての目標の見直しをする。
5 指導計画と評価計画	○各時間の目標と、学習内容が明示されている。 ○学習内容に応じた単位時間毎の評価規準を設定してわかりやすい。
6 本時の学習	○評価方法が具体的に書かれている。 ○全体指導の中で、支援を要する児童の配慮について書かれてある。 ●評価基準を具体的な表現にする。 ●支援を要する児童に対する個別の指導の手立てを、さらに具体的に記す。 具体的にどの場面で、どんな支援をするのか展開に書いておくと良いです。 ●ねらいに迫る学習展開にする。 ・本時の目標が「大事なことを落とさずにメモを取ること」であるならば、二人組で行うと、教室がぎやかになり、聞き取ることが難しくなると思います。 ・同じ内容にせずに、聞き取るポイントの所だけ少し変えると変化があり良いです。 ●板書計画の記入。

注) ○：良く工夫されていると感じたところ ●：もう少し工夫できると感じた点

11. 研究協議の進め方について（河場哲史）

11. 1. 良く工夫されていると感じた点

1. 研究協議を公開していただける心意気がすばらしい

なかなか自分の学校以外の研究協議を見学させていただけの機会はありません。とても勉強になりました。

2. 一人一人の意見が的を射ている 前向きな意見が多い

先生方一人一人の意見が適切で、活発な意見交換が行われていることに感銘を受けました。

3. 意見を出しやすい雰囲気がある

話し合いを和やかに進めて行きやすい、お互いを尊重した雰囲気がすばらしいと思いました。

4. 配付資料が充実している（事前の準備がすばらしい）

配布していただいた資料がとても丁寧でわかりやすいものばかりでした。自分の勤務校でも参考にさせていただきます。

11. 2. もう少し工夫できると感じた点

1. ねらいが達成できたかどうかの評価を、はじめに行うこと

評価をはじめに確認しておく、改善に向けての具体的なアイデアを出しやすくなると思います。

2. 討議の柱について、最後にまとめをすること

討議の柱の3点について、具体的にまとめをしていたら、参加者全員が、今日の協議で話し合われたこと、今後に向けての具体策などを明確に意識できるようになると思います。

3. ホワイトボードを利用すること（司会とは別に書記を設ける）→会議の見える化

せっかくホワイトボードがあったので、出てきた意見や支援の具体策等を書いてまとめていくと、参加者全員が会議の流れや要点を意識しやすくなり、協議も深まって行くと思われれます。

連絡先

兵庫教育大学
柘植研究室

ホームページ

<http://www.edu.hyogo-u.ac.jp/tsuge/index.html>

メールアドレス

tsuge@hyogo-u.ac.jp

住所 兵庫県加東市下久米942-1

TEL 0795-44-2095（直通）

0795-44-1101（代表）

アンケートへのご協力をお願い

この報告書をご覧になって、お感じになったことをお書き下さい。

（このアンケートは、大学院の学生の教育、及び、研究として活用させていただきます。なお、回答者の個人が特定されることはありません。）

ありがとうございました